



平成28年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年5月12日  
東

上場会社名 株式会社ミズホメディー 上場取引所  
コード番号 4595 URL <http://www.mizuho-m.co.jp/>  
代表者(役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 唐川 文成  
問合せ先責任者(役職名) 取締役経理部長兼総務部担当(氏名) 佐々木 寛 (TEL) 0942-85-0303  
四半期報告書提出予定日 平成28年5月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年12月期第1四半期の業績(平成28年1月1日～平成28年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第1四半期	1,464	—	189	—	189	—	127	—
27年12月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
28年12月期第1四半期	53.39		—					
27年12月期第1四半期	—		—					

(注) 1. 当社は、平成27年12月期第1四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成27年12月期第1四半期の数値及び平成28年12月期第1四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。  
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年12月期第1四半期	3,472	1,628	46.9
27年12月期	3,490	1,589	45.5

(参考) 自己資本 28年12月期第1四半期 1,628百万円 27年12月期 1,589百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期	—	0.00	—	37.00	37.00
28年12月期	—	—	—	—	—
28年12月期(予想)	—	0.00	—	45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年12月期の業績予想(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,255	—	133	—	132	—	95	—	40.07
通期	4,795	17.5	491	26.5	487	31.1	352	36.7	147.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成27年12月期第2四半期においては、四半期財務諸表を作成しておりません。  
このため、平成28年12月期第2四半期(累計)の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年12月期 1 Q	2,381,400株	27年12月期	2,381,400株
② 期末自己株式数	28年12月期 1 Q	—株	27年12月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年12月期 1 Q	2,381,400株	27年12月期 1 Q	—株

(注) 当社は、平成27年12月期第1四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成27年12月期第1四半期の期中平均株式数は記載していません。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。なお、当社は、前第1四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っていません。

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、それまで政府や日銀の経済・金融政策による円安株高を背景に、企業収益や雇用環境の改善など緩やかな回復基調が継続していましたが、中国をはじめとする新興国経済の減速懸念を受け、日銀は平成28年2月に前例のないマイナス金利政策を発動したものの、円高の進行や株価の急落の局面がみられるなど、先行きの不透明感が強まる状況で推移しました。

体外診断用医薬品業界におきましては、少子高齢化が進行するなか、インフルエンザウイルスやノロウイルスなど感染症の集団発生により、国民の医療への期待は「治療」から「予防」や「ケア」へとシフトしてきており、医療現場におきましても、早期診断・早期治療の重要性の認識は高まっております。特に感染症分野では、小児・老人医療における感染拡大の防止や院内感染の予防対策のため、早期診断に有用な検査技術が求められており、国内外を問わず微生物検査や遺伝子検査の技術革新のスピードは速まっております。

このような環境のなか、当社は、医療現場からの様々なニーズに応えるため、POCTメーカーとして新しい検査技術や新製品の開発を推進するとともに、既存製品の改善改良にも尽力してまいりました。また、主力製品や新製品の売上拡大に努めるとともに、競争力強化のため生産性の効率化及び合理化にも注力してまいりました。

これらの結果といたしまして、当第1四半期累計期間の売上高は、14億64百万円となりました。

当社は、体外診断用医薬品事業の単一セグメントであります。市場分野別の売上高は以下のとおりであります。

病院・開業医分野におきましては、インフルエンザ検査薬は、機器試薬システムの機器の販売台数の増加に伴い試薬の売上高は伸長しましたが、インフルエンザ検査薬全体としては2015/2016シーズンの流行の開始時期が例年より1ヶ月遅れた影響を受け、売上高は9億61百万円となりました。一方、アデノウイルス検査薬、Strep A (A群β溶血連鎖球菌)検査薬及びノロウイルス検査薬などその他感染症POCT検査薬は、引き続き増収基調を維持しました。以上により、病院・開業医分野全体の売上高は13億53百万円となりました。

OTC・その他分野におきましては、妊娠検査薬及び排卵日検査薬は、他社との価格競争のなか販促企画等で売上拡大を図りましたが、OTC・その他分野全体の売上高は1億11百万円となりました。

利益面につきましては、機器試薬システムの機器及び試薬の売上高の割合が増加し、全体の売上原価率が上昇したこと、また、販売促進費、新製品の研究開発費及び人件費が増加したことなどにより、営業利益は1億89百万円、経常利益は1億89百万円、四半期純利益は1億27百万円となりました。

なお、インフルエンザ検査薬は、当社の売上高の約50%を占める主力製品であり、インフルエンザの流行時期は冬季であることから、売上高及び営業利益ともに、第1四半期及び第4四半期に集中する傾向があります。

第40期(平成28年12月期)の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益は以下のとおりであります。なお、第2四半期、第3四半期及び第4四半期につきましては、未経過であるため記載していません。

第40期(平成28年12月期)の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益

(単位：百万円)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第40期 合計
売上高	1,464	—	—	—	1,464
内インフルエンザ検査薬の売上高	961	—	—	—	961
営業利益	189	—	—	—	189

(参考)

第39期(平成27年12月期)の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益又は営業損失

(単位:百万円)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第39期 合計
売上高	1,464	544	605	1,468	4,082
内インフルエンザ検査薬の売上高	1,010	46	69	842	1,969
売上高の四半期百分率	35.9%	13.3%	14.8%	36.0%	100%
営業利益又は営業損失(△)	327	△156	△87	305	388

- (注) 1. インフルエンザ検査薬には、「クイックチェイサー Flu A,B」、「クイックチェイサー Auto Flu A,B」及び富士フイルム株式会社向け機器試薬システムの試薬が含まれております。
2. 第39期(平成27年12月期)の各四半期会計期間の売上高及び営業利益又は営業損失(△)につきましては、有限責任監査法人トーマツによるレビューを受けておりません。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末に比べ18百万円減少し、34億72百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加92百万円、有形固定資産の増加31百万円及び流動資産のその他に含まれている繰延税金資産の増加17百万円があったものの、受取手形及び売掛金の減少1億2百万円及びたな卸資産の減少49百万円があったことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末に比べ57百万円減少し、18億43百万円となりました。これは主に、賞与引当金の増加46百万円及び流動負債のその他に含まれている未払金の増加23百万円があったものの、支払手形及び買掛金の減少70百万円及び短期借入金の減少59百万円があったことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末に比べ38百万円増加し、16億28百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加39百万円によるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年2月12日発表の第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	41,225	133,276
受取手形及び売掛金	1,467,030	1,364,484
商品及び製品	423,874	349,842
仕掛品	220,592	231,391
原材料	224,005	237,678
その他	33,156	50,916
貸倒引当金	△899	△772
流動資産合計	2,408,986	2,366,817
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	300,798	296,281
土地	466,336	466,336
その他（純額）	117,360	153,695
有形固定資産合計	884,494	916,312
無形固定資産	5,053	5,432
投資その他の資産	192,035	183,455
固定資産合計	1,081,583	1,105,201
資産合計	3,490,569	3,472,019

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	389,217	318,475
短期借入金	349,420	290,420
未払法人税等	57,603	75,713
賞与引当金	23,610	70,317
返品調整引当金	2,681	2,870
その他	230,168	253,852
流動負債合計	1,052,700	1,011,648
固定負債		
長期借入金	265,750	245,395
退職給付引当金	252,920	247,942
役員退職慰労引当金	326,781	336,200
その他	2,647	2,088
固定負債合計	848,099	831,626
負債合計	1,900,799	1,843,275
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	464,548	464,548
資本剰余金	274,548	274,548
利益剰余金	850,290	889,324
株主資本合計	1,589,387	1,628,421
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	381	322
評価・換算差額等合計	381	322
純資産合計	1,589,769	1,628,743
負債純資産合計	3,490,569	3,472,019

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)
売上高	1,464,762
売上原価	483,166
売上総利益	981,595
返品調整引当金繰入額	188
差引売上総利益	981,406
販売費及び一般管理費	792,185
営業利益	189,221
営業外収益	
受取利息及び配当金	2
受取手数料	299
為替差益	975
その他	27
営業外収益合計	1,304
営業外費用	
支払利息	1,190
営業外費用合計	1,190
経常利益	189,335
税引前四半期純利益	189,335
法人税、住民税及び事業税	71,198
法人税等調整額	△9,008
法人税等合計	62,189
四半期純利益	127,146

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、体外診断用医薬品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。